

令和7年度 第1回 紀南高等学校運営協議会 議事概要

日 時	令和7年5月14日(水) 19:00~21:40
場 所	紀南高等学校会議室
出席者 (敬称略)	岩本、山本、長阪、廣畑、田尾、産屋敷、二村、立嶋、藤田、湊、岡本 (県教育委員会) 一尾、加藤英 (紀南高校) 福田、湊 <sub>子</sub> 、込谷、中道、中井、西垣戸、池山
欠席者 (敬称略)	辻本、西
議 事	2 協議事項 (4) 今後の学校運営協議会について 紀南高校の取組を引き継ぐ熊野青藍高校紀南校舎についても、紀南高校と同じ委員による学校運営協議会を設置し、紀南高校学校運営協議会と一体的に、学校運営への参画をお願いしたい。 活性化協議会との役割の違いを考慮し、紀南及び熊野青藍紀南校舎の生徒によりよい教育を提供するためのご支援・ご協力をいただくための協議を中心としたい。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ・スクールの在り方について、時代の動向を踏まえた根本的な議論(全入時代のへき地の高等学校の在り方、へき地の高等学校が果たすべき役割、東紀州地域におけるコミュニティ・スクールの在り方・役割)が必要。東紀州地域においては、地域を担う人材が流出する。地域創生のための高等学校の役割をどう位置づけるかが重要。木本校舎も含めた熊野青藍でコミュニティ・スクールとしてもらいたい。</li> <li>⇒ 地域を支える人材を育成するという点で高等学校は一定の役割を果たしている。紀南校舎はよく当てはまる。木本校舎は、生徒が目指すところも多様で、世界に羽ばたき、さまざまところで活躍することを目指すことも求められている。木本と紀南が同一になってしまうと、紀南の存在意義がこの地域で薄れてしまうと思われるため、少なくとも当面2年間は、熊野青藍紀南校舎のコミュニティ・スクールとしていきたい。</li> <li>・ 校長の意見は妥当だと思う。紀南の2、3年生をしっかり支えていくのは当たり前であるが、1年生も一緒に皆で育てていかないといけない。2年後、紀南の生徒がいなくなったときのことは、今後の2年で考えていくべき。木本校舎は地域性も違い、難しいようにも思う。</li> <li>・ 熊野青藍紀南校舎の学校運営協議会に移行していこうというならば、以前の木本高校、紀南高校と変わらない。熊野青藍という名前を冠しても、紀南校舎への入学生は減った。新しい特色を求めるならば、(紀南高校が) 指定を受け</li> </ul>

る前のような2年間ぐらいの協議をしておかないといけない。今までどおりの特色の付け方では、一生懸命に現生徒に向かって応援していても、選んでもらえない。改善しないといけない。

- ・ 学校についての正しい情報が地域に伝わっていない。従来の木本高校、紀南高校のイメージ。このままでは、紀南校舎が減っていく一方で自然消滅になりかねない。支援が必要な子どもたちを立派に育てて社会に送り出していくうえで、紀南の存在はとても重要。再度、紀南の特色をどう生み出すか、中身を協議すべき。

- ・ 地域を担うべき人材が流出していくのを食い止めて、この地域に根差した卒業生に地域に留まってもらうことを、しっかりと打ち出してやっていくしかない。地域の方に運営協議会にもう少し関わってもらうなど、地域に紀南校舎の特色をわかってもらううえで、積極的に加えていってはどうか。

⇒ 木本の在り方にかかわらず、紀南校舎で生徒を集めていくための魅力を発信していきたい。紀南の強みのどの部分を強調して発信していくか、メリハリをつけ、地元就職が多いなど、木本にない強みを紀南独自のものとして発信していきたい。

- ・ 変えるチャンスはこの1年目の時期。木本校舎も地元で活躍できる人材育成を目指すべきだと思う。木本校舎も学校運営協議会を作るべき。紀南校舎は、今までどおり生徒たちに支援をし、社会に羽ばたいていけるような人材育成をしてもらい、運営協議会も協力していく。

⇒ 木本をどうするかについては、木本で考えなければならないが、今のところ現状を変える気持ちはない。

- ・ 現在、子どもは、楽しく紀南高校に通っている。授業もしっかりしてもらっており、部活動も活発にしている。

- ・ 「紀南に通うとよかった」ということをどう伝えていくかが大切。
- ・ 地元就職してもらいたい気持ちがある。地元の仕事もあるので、勧めてもらいたい。保護者世代では、地域外から地元に戻ってきて就職したり、みかん産業をしたり、ということもある。

- ・ 熊野青藍を2つに分けて考えるのではなく、1つで考え「どちらも同じ学力がつく」とした方が生徒は集まるのではないか。

- ・ 紀南のよさは、先生と生徒の距離が近いことで、先生に聞きやすい環境や授業が面白いことにより、成績が伸びたりしている。熊野青藍としてまとまったが、紀南のよさは維持してほしい。支援が必要な生徒も多いと思うので、特色を持った紀南校舎として地元にあってほしい。

- ・ 進路指導の際に、他地域の大企業への紹介を優先しているという話を聞くが、

実際のところどうか。

⇒ 必ずしもそういうわけではないが、大企業からは事前に打診があるため、興味のある生徒がいるかどうか発掘はする。外に出ていくことを勧めるわけではない。

・ 木本校舎にも総合学科があるが、就職に関して特色的なことは出てくるか。

⇒ 木本は、現在、就職希望者がほとんどいない。ほぼ全員が進学を希望しているため、その進学希望に答えていかないと生徒は集まらないと感じている。

・ 木本は進学、紀南はこの地域の人材育成に特化する方が、特色を打ち出せるのではないか。

・ 木本校舎をコミュニティ・スクール化することにより、地域の意見が出てきて、もっと頑張れるのではないか。紀南では、学校運営協議会から先生方へ様々な依頼をし、努力がされてできるようになってきた。

・ 木本の学校関係者評価委員会では何をしているのか。

⇒ 委員はPTA会長、同窓会長、熊野市教育委員会、中学校校長会代表、小学校校長会代表。学校の運営について、評価、意見をもらっている。

・ 現状についての意見はないのか。

⇒ 授業の指導技術について、授業参観をもとに意見をもらった。

・ 紀南地域高等学校活性化推進協議会では、今後どのような協議をするのか。

⇒ (県教委) 活性化協議会の目的は、地域の高校の特色化魅力化をどう図っていくかを協議していくこと。この地域では、紀南高校、木本高校、そして今後、熊野青藍1校になる状況の中で、熊野青藍高校の活性化について協議していく。

・ この地域の公立である本校にいかに来てもらうか、さらにこの地域に残る人材をいかに育てていくかが、熊野青藍の役割。地域に残る人材を育てるという特色を出していくのが一番やりやすい。

・ 提案には、木本校舎の内容も含まれており、この場では決をとることはできない。

⇒ (県教委) 紀南地域高等学校活性化推進協議会は、紀南校舎と木本校舎のことを一体的により広い観点で議論できる場としては、適切だとは思う。

内容について精査する必要はあるが、今日の議論と同様、統合された熊野青藍高校の魅力特色をどう打ち出し、現状の改善を図っていくかという観点で協議する場であると思う。

・ 活性化協議会の内容として、「全入時代のへき地の高等学校の在り方」「へき地の高等学校が果たすべき役割」「東紀州地域におけるコミュニティ・スクー

ルの在り方・役割」について議論してもらいたい。

⇒（県教委）県教委では今年度からの2年間、次期県立学校活性化計画の策定にあたる。県全体を見とおしたテーマとしてはあり得るものである。

➡ 資料「今後の学校運営協議会について」のうち、4（紀南校舎についても紀南高校と同じ委員による学校運営協議会を設置し、紀南高校学校運営協議会と一体的に、学校運営への参画をする）については、承認。

(1) 令和7年度学校マネジメントシートについて ⇒ 承認

・ キャリアデザインの導入、自己肯定感の育成についてお願いしたい。通級も今年度も続けて実施してもらいたい。

⇒ 続けて実施していく。

(2) 令和7年度学校運営費支出計画について ⇒ 承認

・ 新校になるにあたり、看板等の予算が必要だったと思うが、それらについては、予算がついたのか。

⇒ そのとおりです。

(3) 令和7年度人権教育推進計画について ⇒ 承認

1 報告事項 ⇒資料を見ていただく。

(1) 教職員の状況について

(2) 信頼される学校であるための行動計画

(3) 令和6年度卒業生の進路先について

(4) その他 ⇒ なし

#### 4 連絡事項

(1) 令和7年度学校運営協議会は、

第2回 7月 9日（水） 第3回 11月27日（木）

第4回 3月 4日（水） に実施予定

(2) 令和7年度紀南高等学校年間計画：別紙参照

(3) 学校運営協議会会則等の確認

(4) 関連新聞記事の紹介

(5) 二村委員より

・ 三重子どものこころネットワークについて